

若者の想いをかなえるために ～高校生が描く将来像と地方創生

出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するに当たっては、幅広い市民や企業・団体等の皆さんからの意見を聞き、人口減少対策や住みよい環境整備などに関する具体的な施策を盛り込んでいきたいと考えています。

7月16日に開催された出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議では、雇用、産業、観光、医療・福祉、結婚・子育てなど多岐にわたり、各委員から具体的な施策について提案がありました。

また、市議会や各地域協議会等への説明、市民からの意見募集のほか、市内事業者を対象とした企業経営に関する実態調査、20～30歳代の方を対象とした結婚・出産・子育てに関する意識調査、市外在住者を対象としたWeb調査を行い、総合戦略に反映していく予定です。

今月は、次代を担う高校生に焦点を当て、市内高校生を対象に行った定住・結婚等に関する意識調査の結果や高校生が行っている地方創生に関する取組を紹介します。



出雲高校での政策提案に向けたディスカッションの様子

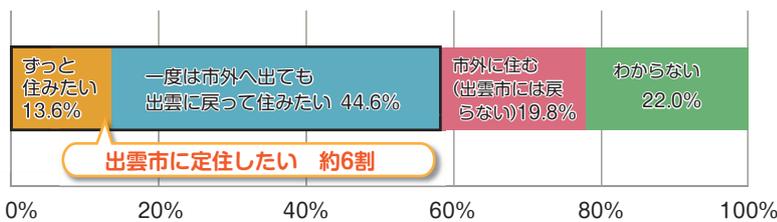
調査を行ったのは、市内にある高校8校の3年生1,462人。主に「定住」と「結婚・子ども」について、意識調査を行いました。

定住志向については、グラフ①のとおり、一度は市外へ出て戻りたいという回答を含めて約6割が出雲市に定住したいと考えています。一方で、市外に住みたいという回答は19.8%でした。これは、2005年（平成17年）から2010年（平成22年）の年代別人口動態の分析結果である、高校卒業後約2割以上の若年層が市外で生活し、そのまま出雲市で生活していないという状況と同様で、約2割が都市圏等へ住みたいという志向を持っているようです。

グラフ①

出雲市への定住志向について

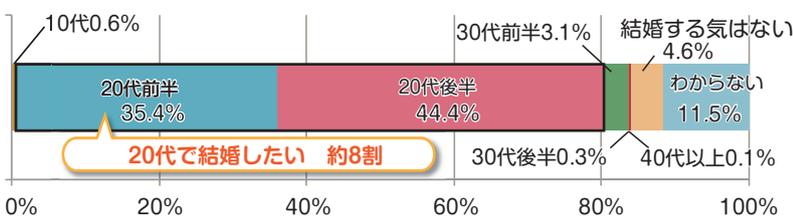
(回答数1,447)



グラフ②

結婚したい年代について

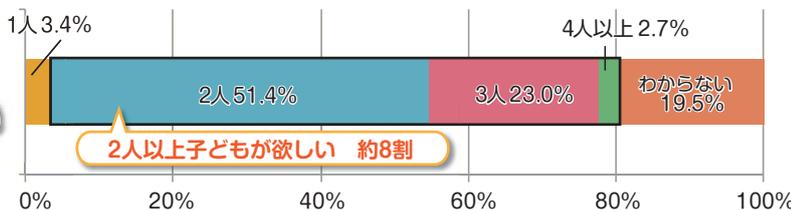
(回答数1,440)



グラフ③

子どもは何人ぐらい欲しいですか

(回答数1,428)



結婚したい年代については、グラフ②のとおり、20代での結婚を考える高校生は約8割にのぼりました。2010年の国勢調査によると、30歳までの既婚率は、男性約4割、女性約5割でしたので、これと比べて、20代で結婚したいと思う高校生が多いことがわかります。

また、希望する子ども的人数については、グラフ③のとおり、8割近くが2人以上と答えました。2013年の合計特殊出生率（1人の女性が一生に産む子どもの数）1.75と比べ、こちらも高い結果となりました。現在検討している「出雲市の人口ビジョン骨子（案）」では、出雲市のめざすべき将来の方向のひとつに、合計特殊出生率の上昇による自然増を掲げており、目標達成に向けての明るい兆しといえます。

現在の高校生の意識が、必ずしも、5年後、10年後も変わらないわけではありません。しかし、今回の調査の中で、出雲市の魅力を聞いたところ、多くの高校生が、自然環境や観光資源といった「出雲らしさ」に魅力を感じていると答えました。

市では、こうした若者の想いを総合戦略の具体的な施策に反映させることで、彼らが将来にわたって、住みたい、子どもを育てたい、誇りに思える出雲市を創っていく考えです。

地方創生をテーマに、出雲高校生が市長に政策提案



出雲高校が文部科学省の指定を受け、平成26年度から実施している課題研究の成果発表を行いました。同校の3年生56人（12グループ）が、7月28日に市職員、29日に市長に対し、観光・地域の魅力化、地域経済・商工業、環境・エネルギー政策など4項目にわたる政策を提案しました。

提案は、神門通りのさらなる活性化や温泉のテーマパークなどの観光振興策、ソーシャルメディアやインパクトのあるCMを使った情報発信などのほか、景観を生かしたまちづくりや市財政の分析など多岐にわたり、各グループの発表者は、堂々とした態度で、わかりやすく説明していました。

長岡市長は、市の将来について、「学んだ知識を活かせる職場や多様な職種があり、多様な選択がで

きるまち、帰って来たくなるまちにしていきたい」と話しました。そして、「出雲」出身であることを、自信を持って言えるようになってほしい」と、「真の出雲ブランド」の創造を生徒に呼びかけました。

また、神門通りでの取組例を引き合いに、「信念や現状を変えようという意欲がなければ変革はできないことや、「さまざまな角度からものごとを見る訓練が大切」などと、次代を担う若者へ期待を込めて語りかけました。

生徒の感想からは、地域の強みや課題を知り、解決策を考える過程を通して、地域や社会に貢献したいという意欲が増したと考える意見が多くみられました。

出雲高校では、2年生が、引き続き地域の課題研究等に取り組んでいます。



「政策提案実施後の高校生の想い」

「市長や担当職員の方からの話で、出雲市が財政健全化のためにさまざまな施策を講じていることがわかりました。将来、幅広い世代の人が豊かな気持ちで暮らせる、住みやすい街づくりに貢献していきたいと思っています。」（板倉卓さん）

「地域活性化のためには、新しい産業をどんどん起こして雇用をできるだけ増やすことが大事だと思っていました。一方、現実的には働き手である若い世代が県外へ流出していることがわかりました。将来は教員として地元に戻り、次の世代に故郷出雲の魅力や、地域で生きることのすばらしさを伝えることで、少しでも地域の力になっていきたいと思っています。」（大倉菜恵さん）